

**Not everyone** is against human cloning, / **however** // **Some** people support cloning / if it is for the purpose of medical treatment, / **although** they oppose the cloning of babies.

**In other words**, / they feel [that cloning should be continued / **unless** it is **clearly** shown to be **harmful**].

The debate over this **issue** is likely to go on for some time.

内容Check!

問 次の各文が正しければ ( ) に○を, 誤っていれば×を記入しなさい。

1. There are people who support human cloning. ( )
2. The eggs people might use for cloning automatically turn into human beings in time. ( )
3. Supporters claim that scientists should be able to experiment freely. ( )

覚えておきたい表現

not every ~ 「全部の～が…というわけではない」(部分否定)

ℓ.1 : **Not everyone** is against human cloning 「誰もがヒトのクローニングに反対しているわけではない」  
 ・not everyone ~ 「全員が～というわけではない」: every は not で否定されると、部分否定になる。同様に部分否定になるものには、both 「どちらも～というわけではない」、all 「すべてが～というわけではない」などがある。

Ex. I don't dislike **every** dish on this table. I like this soup! 「私はこのテーブルにあるすべての料理が嫌いなのではない。このスープは好きなのです！」

wait for ~ to do 「～が…するのを待つ」

ℓ.6 : he or she will not have to **wait for** someone **to die** to get a new heart 「新しい心臓を手に入れるために、誰かが死ぬのを待つ必要はないだろう」

Ex. I'm **waiting for** a new refrigerator **to be delivered**. 「新しい冷蔵庫が配達されるのを待っているところだ。」

・he or she ... : ここでは前文の a patient を指している。or she とつけ加えるのは、女性に配慮した現代英語の表現。

整理しよう! \*段落要旨・構造\*

1 クローニング賛成派の意見 1

- ◆ ℓ.1 **however** 「しかし: 逆接」  
誰もがクローニングに反対というわけではない。
- ◆ ℓ.1 **Some** ~ 「ある～は: 列挙・追加」  
・治療目的のクローニングには賛成の人もある。  
・(賛成理由) 医療面でのクローニングの恩恵。

◆ ℓ.4 **For example** 「例えば: 例」

1. 本人の細胞からできた心臓なら拒絶反応が出ない。

◆ ℓ.6 **Furthermore** 「さらに: 列挙・追加」

2. 心臓を手に入れるのに誰かが亡くなるのを待つ必要がなくなる。

2 クローニング賛成派の意見 2

1. 治療用のクローニングは殺人ではない。→ クローニングに使われる卵はそれだけではヒトに成長しない。

◆ ℓ.10 **also** 「また: 列挙・追加」

2. クローン関連技術を使った医療を今後も患者は受けるだろう。

◆ ℓ.14 **therefore** 「したがって: 結果・結論」

3. 研究者にはクローン研究の自由が、患者には救命治療〔クローニング〕利用の自由があるべきだ。

◆ ℓ.16 **In other words** 「言い換えれば: 言い換え」

=有害と断定できないなら、クローニングを続けるべきだ。

(結論) クローンについての議論はまだ続きそうだ。

背景知識

●クローン技術への賛否のそれぞれの根拠

クローン技術利用の是非についての議論には、哲学的な問題意識が関わっている。

賛成論では、例えば功利主義の観点からすると、ある器官や細胞などが不足している人たちのために、クローン胚から必要な器官や細胞などを育て、それを移植することは、その人の幸福を増進させるという結果を生む、ということが根拠となる。

一方反対論では、「人間の尊厳」という観念が最も大きな根拠となる。中世ヨーロッパ以来、人間はその自由意志ゆえに卓越した存在であるということが強調されてきたが、これに、他人の人格を手段として扱ってはならない、つまり他人を道具扱いしてはならないと唱えたカントの人間観が加わる(カント: 1724 ~ 1804。ドイツ観念論を生む契機となった批判哲学や、人間の世界認識のあり方の構想としての超越論的哲学等で有名な大哲学者)。カントの人間観が加わる理由は、p.63で触れた生命倫理(bioethics)がそもそも「人間の尊厳」に関わる概念をカント哲学と共有していることにある。したがって、「人間の生命の萌芽」と評価できるクローン胚を「人間」という範疇に含めるならば、クローン胚の利用はまさに人間の「道具扱い」となり、人間の尊厳を損なう行為となるので、反対論が成立するということなのである。

**深めたい人に**: 中内光昭『なるほどわかった! クローンのこと』(グラフ社, 2003年), 高橋克也「カントと現代思想」(坂部恵, 有福孝岳, 牧野英二編『カント全集別巻』(岩波書店, 2006年)所収)